

(代表質問)

質問日	令和 6 年 9 月 2 5 日 (水)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	市民クラブ	議席番号	25	氏名	岩田 邦泰
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 市長が議会に期待すること	市長就任から 1 年半が経過、今期は自身の編成予算で諸課題に取り組んでおられる中、議会との関係も良好に進めていると認識している。また今年 1 月の行政区再編は、大都市制度・行財政改革特別委員会をはじめとする議会の期待に、当局が応えてくれたものと思っている。 さて議会としても現在は、多目的ドーム型スタジアム建設促進議員連盟を立ち上げ、当局も参加する期成同盟会と協調していく動きや、より良い議会の在り方を求め、定数を含めた議論を行っているところである。そこで市長が議会に期待することについて、以下伺う。 (1) 多目的ドーム型スタジアム建設促進議員連盟の活動に関して伺う。 (2) 現在行われている議員定数も含めた議会改革議論に関して伺う。						中野市長
2 行政区再編における組織改正による評価について	行政区再編においては、区の再編を契機に今までの組織を再編し、市民サービスの低下防止に留まらず、より向上していくことを目指した。9 月 3 日開催の大都市制度・行財政改革特別委員会では、主に人員配置の状況を中心に、第 1 回目の検証が行われたが、改めて効果検証について以下伺う。 (1) 再編以前には区役所ごとに生活福祉課などを置き、申請や相談・審査などを行ってきたが、再編に伴い福祉事業所として窓口体制は変えずに本庁組織となった。その効果と課題、今後の対応について伺う。 (2) 土木整備事務所は行政区再編を機に「4 事務所 6 出先グループ」から三ヶ日出先グループ新設や所管地区変更を含め「3 事務所 8 出先グループ」になった。その効果と課題、今後の対応について伺う。 (3) 選挙管理委員会は行政区ごとに設置するため、7 か所から 3 か所に減った。それに伴う選挙への効果と課題、今後の対応について伺う。						小松健康福祉部長 平井土木部長 田中総務部長
3 ロボットの活用とロボティクス産業の振興について	行政区再編では人件費削減も目指したものと認識しているが、いまだ庁内では機械化や R P A ではなく、人力に頼っている仕事も多いように感じている。また外部委託事業でも、同様に人力に頼るばかりに、発注しても「人がいない」「猛暑で稼働時間が満足できない」ため、進捗が遅いものもあるように思う。ロボットや A						

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
4 インドミッションについて	I、I Tで済むことはそれらに任せ、人は人でなければならないことに注力すべきである。そこで以下伺う。 (1) 公園緑地などでの芝や草刈りに関しては道路保全で既に導入実績のある自動ロボット草刈り機を活用すべきと思うが伺う。	中村花みどり 担当部長
	(2) アグリテックや林業テックなど第一次産業現場では人手不足を補うためにもロボットを活用させる支援があるべきと思うが、ロボットをはじめとするスマート農林業技術の課題及び対応策について伺う。	清水農林水産 担当部長
	(3) 介護作業を補助したり、利用者を見守ったり、コミュニケーションをとったりと、ロボットは福祉現場でも活用できると思うが伺う。	小松健康福祉 部長
	(4) 天竜川上空全般を使ったドローン実装の取組と、それ以外のユースケース作りへの取組を伺う。	水谷デジタル・ スマートシテ ィ推進部長
	(5) ロボット活用等を含めて令和2年4月に設置された官民連携プラットフォームが、本市の課題を解決したものはあるか、また議論のテーブルに本市の課題提案は乗せられてきたか伺う。	〃
	(6) 一口にロボットといっても、活用範囲は多くの部門に及ぶ。ロボットの中核はA Iなどのデジタルシステムであることから官民連携プラットフォームを運営するデジタル・スマートシティ推進課が庁内横断的に活用推進することが望ましいと考えるが伺う。	〃
	(7) ロボットを活用した産業振興策について、以下伺う。 ア ドローンなど産業機器操作の習熟や、資格試験の会場として「とよはし産業人材育成センター」のような施設を設ける考えはないか伺う。 イ ドローンを含む次世代航空産業について伺う。 ウ ロボティクス産業全般について伺う。	北嶋産業部長
4 インドミッションについて	7月には産業部長等がインドのアーメダバード市や、インド工科大学ハイデラバード校(I I T H)を回り、高度人材獲得に繋がる連携などについて情報を収集したと聞いている。その成果や現地での新たな気づき、また今後のインドとの連携についての考えを伺う。	北嶋産業部長
5 カーボンニュートラルへの取組について	令和6年2月には私の思いつく範囲で低炭素化が困難と思われる部門の現状と課題、取組を伺った。 その後他市事例には他部門でも、多様な方向性の推進策があることを知ったことから、以下について伺う。 (1) 他市には観光業界と連携し、例えば阿蘇や伊勢志摩などで低環境負荷の車両や宿泊施設を利用する「エコ旅行」を販売している例もある中、浜松の観光としてのカーボンニュートラル施策について伺う。	齊田観光・ブ ラ ンド振興担 当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	(2) 浜松市動物園及びフラワーパークなど、生物多様性の維持を訴求する施設におけるカーボンニュートラル施策について伺う。 (3) 水素活用施策や、再生エネルギー施策などにおいて、本市と静岡県、また県内関連企業などとの連携に関する状況は如何か伺う。加えて、本年策定した推進計画について特に注力した点について伺う。 (4) 国内ではF S C継続を断念した事例を聞くが、カーボンニュートラルへの貢献を念頭にした、今後のF S C認証施策に関する考えを伺う。	中村花みどり 担当部長 袴田カーボン ニュートラル 推進事業本部 長 清水農林水産 担当部長
6 スポーツでのまちづくりについて	会派視察では北広島市を訪れ、エスコンフィールドを中心とした「北海道ボールパークFビレッジ」のまちづくりについて伺った。多目的ドーム型スタジアム整備で同じようなスキームは難しいと思うが、施設設計や周辺整備を考えるうえでは真似できるところも多いと感じた。そこで、以下伺う。 (1) 多目的ドーム型スタジアムの建設予定地は、最寄り的高塚駅から2キロ強の距離がある。対して北広島駅からFビレッジまでは2.6キロあったが、試合に向かう人々は自転車専用道兼遊歩道を歩き、安全に移動できていたことは印象的だった。面的な周辺整備には、高塚駅から安全に歩ける遊歩道整備なども必要と思うが、考えを伺う。 (2) 現在トビオに平日は3本、土日は1時間に1本の間隔で8本のバスが走っている。これに加え、雄踏街道方面の路線を途中で高塚駅北口を経由しつつ延伸することで、多目的ドーム型スタジアムの他にも、検討中の道の駅も公共交通機関で行けると思うが、バス路線の在り方について考えを伺う。 (3) 県が進める遠州灘海浜公園篠原地区の検討においては、市としても周辺の整備と合わせ、同地区のまちづくりとして企画段階から積極的に意見を伝えていくべきと思うが、考えを伺う。 (4) 現状では、市全体としてプロスポーツのフランチャイズがない中では、施設整備と同時にできる限り固定的な利用が見込めるコンテンツが重要である。企画段階から一緒に考えるプロチームへのアプローチに関し、どのような方策を考えているか伺う。 (5) ドームと一口に言うと、東京ドームや大阪ドームのような円形をイメージするが、エスコンフィールドでは四角い建物の中に野球場があった。また一般的な外野席はなく、各チーム応援団は内野席3階に陣取っていた。施設整備には、このような固定概念に囚われない自由な発想が必要と考えるが伺う。	濱田都市整備 部長 〃 戸塚技術統括 監 杉田スポーツ 振興担当部長 〃